就業者数及び就業率
～「25～44 歳」の女性の就業率は上昇傾向、男性の就業率は低下傾向

総務省「労働力調査」によると、昭和 60 年の女性の就業者数は 2,304 万人であったが、平成 27 年は 2,754 万人で、450 万人の増加（昭和 60 年比 19.5%増）となっている。
女性の就業者数は昭和 60 年から平成９年（2,665 万人）まで増加傾向にあり、その後平成 24 年までは横ばいであったが、平成 25 年以降３年連続で増加している。

女性の就業率（15 歳以上人口に占める就業者の割合）は、昭和 60 年（47.4%）以降 46.1～49.6%の間で推移している（平成 27 年 48.0%）が、生産年齢（15～64 歳）についてみると、昭和 60 年（53.0%）から上昇傾向にあり、平成 27 年は 64.6%となっている。
また、25～44 歳の女性の就業率をみると、昭和 60 年（56.5%）からほぼ一貫して上昇傾向にあり、平成 26 年に初めて７割を超え 70.8%となり、平成 27 年は 71.6%となっている。

男性の就業者数は、昭和 60 年は 3,503 万人であったが、平成 27 年は 3,622 万人で、119 万人の増加（昭和 60 年比 3.4%増）となっている。
昭和 60 年から平成９年（3,892 万人）まで増加傾向にあったが、その後は減少傾向にある。
就業率は昭和 60 年（76.1%）以降、低下傾向にある（平成 27 年 67.8%）が、生産年齢（15～64 歳）についてみると、昭和 60 年（81.1%）から平成 27 年（81.8%）まで横ばいで推移している。